

一人ひとりを受け入れてくれる 雰囲気がある

手芸教室参加者の皆さん

この教室には、和島以外にも市内の方、見附、出雲崎などから来る人がいます。それは清水さんの人柄と一人ひとりを受け入れてくれる雰囲気があるからだと思います。家の仕事が忙しい人も、この教室に来てみんなでおしゃべりしながら手芸をして、みんなで食事をして、時間にもしばられず、ゆっくり過ごすことができます。この教室の準備を清水さんが夜なべしてやってくれているのだと思います。こんな風に準備してくれて、この暖かい場所がある、こんな教室他にないですね。地域にはその地域の色がやっぱりあって、和島はよそ者を受け入れてくれる雰囲気のあるおらかな地域です。

Ⅱ 市民協働 story Ⅱ

地域のつながりが希薄になったと言われる昨今、誰でもがいつでも来て、人と繋がり合えるサロンや地域のお茶の間と言った活動が全国に広がっています。ここで紹介させていただいた清水さんは、自分の特技である手芸を教える教室を、「道の駅良寛の里わしま」の和らぎ家という場所で開いています。この教室はただ手芸を教わる場ではありません、高齢者を中心に家にこもっているのではなく、みんなでお昼ごはんを食べたり、おしゃべりしたりする場になっているのです。こんな場が色んな地域、色んなテーマで生まれれば人とのつながりを失ってしまう人がいなくなるはずです。



皆さんとおしゃべりしながら

ものづくりをするのは楽しいですよ

清水シゲ子
70歳

和島で生まれ、高校卒業後に就職で上京、それから60歳前まで故郷を離れました。色んな所に住んだけど、根っこはやっぱり和島にあって落ち着きませんでした。和島に帰ってきたら、同級生が声をかけてくれ、地域との関わりを作ってくれたので、地域に根を下ろしやすかったです。

その同級生が紹介してくれた道の駅で、これまでの仕事の経験を活かして草履など手芸品を作って「道の駅良寛の里わしま」に飾っていました。そうしたらお客さんから作り方を教えて欲しいと言われ、教室を始めることになりました。教室の前に、家で布を切ったり、準備は正直大変な部分もありますが、皆さんとおしゃべりしながらものづくりをするのは楽しいですよ。みなさんと出会えたことが何よりうれしいし、苦労して作って出来上がった時の喜びは何にも代えがたいものです。

